

## ひたちなか市教育委員会会議録

令和6年 第12回 ひたちなか市教育委員会 10月定例会 会議録					
令和6年10月23日(水)		開会 午後4時30分		閉会 午後5時10分	
○場 所	市役所第3分庁舎 防災会議室3				
○出席委員	教育長 秋本 光徳	委 員 佐藤 達	委 員 岡本 修		委 員 大塚 佳代子
○欠席委員				委 員 鬼澤 宏幸	
○会議に出席した事務局職員	補 職 名				氏名
	教育部長				箱崎 勝子
	教育担当参事				檜山 知之
	総務課長				田口 清幸
	学校管理課長				橘 和典
	保健給食課長				金澤 幸浩
	参事兼指導課長				飯村 祐一
	青少年課長				植野 健一
	中央図書館長				大和田 千鶴子
	総務課課長補佐兼係長				菊池 徳
総務課主事				山崎 佑太	
議案審議等	協議事項5	ひたちなか市虎塚古墳史跡公園設置及び管理条例施行規則の一部を改正する規則制定(案)について【非公開】			
その他	その他(1)	9月定例会市議会における教育委員会関係事項について【公開】			

令和6年第12回ひたちなか市  
教育委員会10月定例会会議録

開会 16:30

教 育 長 (あいさつ、開会の宣言)

教 育 長 協議事項については、公開することにより率直な意見の交換や意思決定  
の中立性が損なわれるおそれがあるため非公開にしたいと思います。

非公開とするときは、討論を行わないでその可否を決定しなければなら  
ないとされていますので、この案件を非公開とすることに賛成の方の挙手  
をお願いします。

(全員が挙手)

教 育 長 全員賛成ですので、非公開といたします。

協議事項5 ひたちなか市虎塚古墳史跡公園設置及び管理条例施行規則の一部を改正する  
規則制定(案)について【非公開】

教 育 長 非公開を解きます。

その他(1) 9月定例市議会における教育委員会関係事項について

教 育 部 長 令和6年9月定例会の概要について、ご報告いたします。

今回の一般質問は、教育委員会関連については4名の議員からの質問が  
ありました。その中から、何点かご報告させていただきます。

まず資料1ページ、鎌田議員の3(1)水泳学習の民間委託についての現  
状と課題についての質問がございました。初年度である昨年度は、インフル  
エンザの流行により、年をまたいでしまいました。今年度は実施施設が2  
か所から4か所に増えたことから、短縮できる見込みであること、人数が多  
い場合はインストラクターを増員して対応していることなど、現状をお答  
えしました。また、プールの管理がなくなったことから教員の負担軽減が図  
られ、児童の泳力向上につながったと答弁いたしました。

続いて2ページ、鶴澤議員の1(1)、(2)小中学校入学時の費用負担  
についてということで、現状の費用と負担軽減策についての質問がありま

した。この質問には、小学校は5万円、中学校は10万円程度が入学時に必要となりますが、各家庭により幅があること、負担軽減策としては、食材費高騰への対応として公費負担により給食費を据え置いていること、また、公立学童の保育料が県内で最低額であることなど、学校生活に関連した負担軽減策を講じているといった答弁をいたしました。

次に3ページ、加藤議員の3(2)不登校児童・生徒の健康診断についての質問に対しては、診断当日に欠席した場合は、他の学年の診断日での受診や校医の病院での受診を促していること、不登校の児童生徒には、保護者に健康診断の意義や受診方法を丁寧に説明し、早期受診を勧めているといった答弁をいたしました。

次に、田中議員の1(1)教職員不足の対応についての質問に対しては、本年度4月時点では不足なくスタートしたところですが、加配教員は一部未配置の状況が続いており、年度途中で育児休業や療養休暇等の教員分の確保が難しくなっている状況をお答えしました。これらを解消するために、水戸教育事務所の講師登録の活用や市のホームページへの募集案内、退職教員への声かけなどを行い、今後も臨時的任用職員の確保に努めていくと答弁いたしました。

また、田中議員の1(5)中学校部活動の地域移行の進捗状況についての質問に対しては、これまで部活動改革として、部活動指導員や外部指導者の派遣、茨城大学との連携によるバレーボール教室などを行ってきたこと、引き続きバレーボール教室はNPO法人に委託し、地域クラブ活動の実証事業として進めていくと答弁しました。また、関係各団体や保護者、教員の意向を聴取しながら、種目・分野ごとの受け入れ体制を検討し、説明会等を開催して周知を図っていくと答弁いたしました。

以上、一部のみのご説明とさせていただきますが、全体的には、資料を添付しておりますので、後ほどご覧いただきたいと思います。

9月定例会の報告については以上でございます。

#### 【質疑、意見等】

佐藤委員 田中議員の那珂湊第一小学校の窓が開かないというのも、なかなか難しい所ですね。校舎が古いこともあり、根本的な解決というのは難しいのかもしれない。答弁にあるとおり、優先順位を見極めたの対応ということになるとは思いますが、55年以上前の建設当時のものということで何とかしてあげたいですね。

教育長 そうなると建て替えという話が出てきてしまいますね。

大塚委員 先ほどもご説明いただいた、加藤議員の不登校児童・生徒の健康診断の受診状況についてになるのですが、学校に通えていない児童・生徒の受診率はどれくらいになるのでしょうか。

指導課長 具体的な数字までは把握していませんが、多くのお子さんが受けられていない状況があります。

しかし、学校に登校できた場合には、養護教諭が身長・体重を計測したり、他の学年の検診で学校医が来校した際に受診したりするなどの対応をしております。

佐藤委員 学校医の所には気軽に行けるような形を学校で取っているのでしょうか。

指導課長 学校で受けることができなかった児童・生徒には、学校医のところで無料で受けられるという説明をしております。

教育長 学校医のところに行ければ、健康診断については何とかありますが、最近の不登校の児童・生徒は、学校行事等はいくことができますが、勉強をする授業には入れないといったお子さんの方が、割合は高いのかと思います。

健康診断についての質問だったため、こういった回答の仕方になりましたが、どうしたら不登校の完全な解決になるのかについては、言い切れない所があります。

岡本委員 教職員・保育士の不足ということについて、応募数自体が減少しているという背景があると認識して間違いないでしょうか。

教育担当参事 常勤で勤務される方が少ない状況です。子育ての関係から、非常勤で短い時間であればといった応募は、月に2、3人お問合せいただくのですが、常勤でとなるとハードルが高いようで、なかなか採用に至らない現状があります。

また、事務所への講師登録も昨年度と比較すると少なくなっている現状がございます。

佐藤委員 定年退職された方も多くいらっしゃいますか。

教育担当参事 退職された方が産休補充などといった事は意外に無くて、退職してしまう

とそこまででといった形です。退職後に再任用でフルでという方はいらっ  
しゃいますが、一度辞めてしまった方が補充者としてフルでというケース  
は、現状本市ではございません。

教 育 長 お話を聞いていると、ご退職された方は、現場にタブレットが入ってきて  
いることから、新たにそこに踏み込んでいくことが難しいということがペ  
ーパーティーチャーの方からは伺っています。また、これまでうまく埋まっ  
ていたのは、若い方が講師としてたくさんいましたが、今はどんどん採用を  
するため、人員が余っていないということが一番辛い実態なのかと思いま  
す。

どこの県も人材の奪い合いで、採用試験の時期を早めています。お金を  
かけて採用の予定を組んでも、そもそも人がいなくなっている実態が  
あります。どこかのタイミングで自治体も国も気が付いて、いくら時期を前  
倒ししてもダメだということが遅かれ早かれくると思います。現時点では  
各自治体同士の奪い合い、獲得競争になっている状況です。

大 塚 委 員 私の娘が通っている学校で、教務主任の先生がクラスの担任をされてい  
るのですが、教務主任の業務自体がかなりボリュームがあると思います。先  
生方とよくお話をさせていただくのですが、教務主任を務められている、4  
0代ないしは50代に差し掛かる方々の層がものすごく薄いと聞いており  
ます。教務主任の業務自体が大変なのに、クラスも持つことになるのであれ  
ば、私は役職を持たなくてもいいと思っている若手の先生方もいらっしや  
ると思います。ここは早急に対策を考えていかななくてはと思います。

教 育 長 即効性のある解決策はありませんが、県でブレイクスルー会議を行って  
いて、本市の教育担当参事や東石川小学校長に参加していただいているほか、  
現役の先生で民間経験のある方に参加していただくということを行って  
おります。やろうと思えば、学校ごとに色々な改革をしていくこともできなく  
はないですが、ただこれまでの流れもあり、なかなか変えがたいものもあり  
ますので、本市でもワーキンググループのようなものを作り、学校の規模や  
小中で分けて、効果は同じでも業務がスリムになるような提案を、年明けご  
ろにお示しできるようにまとめる作業をスタートさせたところです。

登下校の見守りなど、地域の方にご協力いただいている光景を目の当た  
りにします。本当にありがたい限りで、学校運営協議会などのお力も借り、  
学校運営に関するご意見を頂戴しながら、学校が地域のお役に立ちながら、  
地域の方々にも学校のことを助けていただくというようなwin-win

の関係になれると良いと模索を始めたところです。

佐藤委員 教員養成大学がいくつかありますが、とにかく教員を増やすためには、定員を増やしていかななくてはならないと思います。仮にクラス数を1つ増やして、定員が40人増加したとしても、県内に学校数がたくさんあるため、どうしようもないという問題があると思います。さらに定員を増やしたとしても、少子化で児童生徒数が減少し、学級数が減っていくことがおこると予想されるため、難しい問題です。

私は常磐大学で、3年生4年生の授業を行っていたことがあり、人間科学科で実習なども行うのですが、実際に教員になる学生は、全体の半分もいなかったと思います。教員免許を持っている人の掘り起こしというのも重要になってくるのかと思います。

教育長 お声掛けをし、ペーパーティーチャーの方々に対する説明会を水戸と県南で年に2回ずつ行っていますが、名簿を掘り起こすということはなかなか難しいですね。茨城県教育委員会が発行した免許状であればおそらく可能かと思いますが。

校長先生に対し、働き方改革を頑張ってもらえるようお願いしつつ、学生に対し、学校という職場は楽しく、やりがいがあるという発信も必要になっていくのかと思います。

教育長 (閉会の宣言)

閉会 17:10